

2022年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

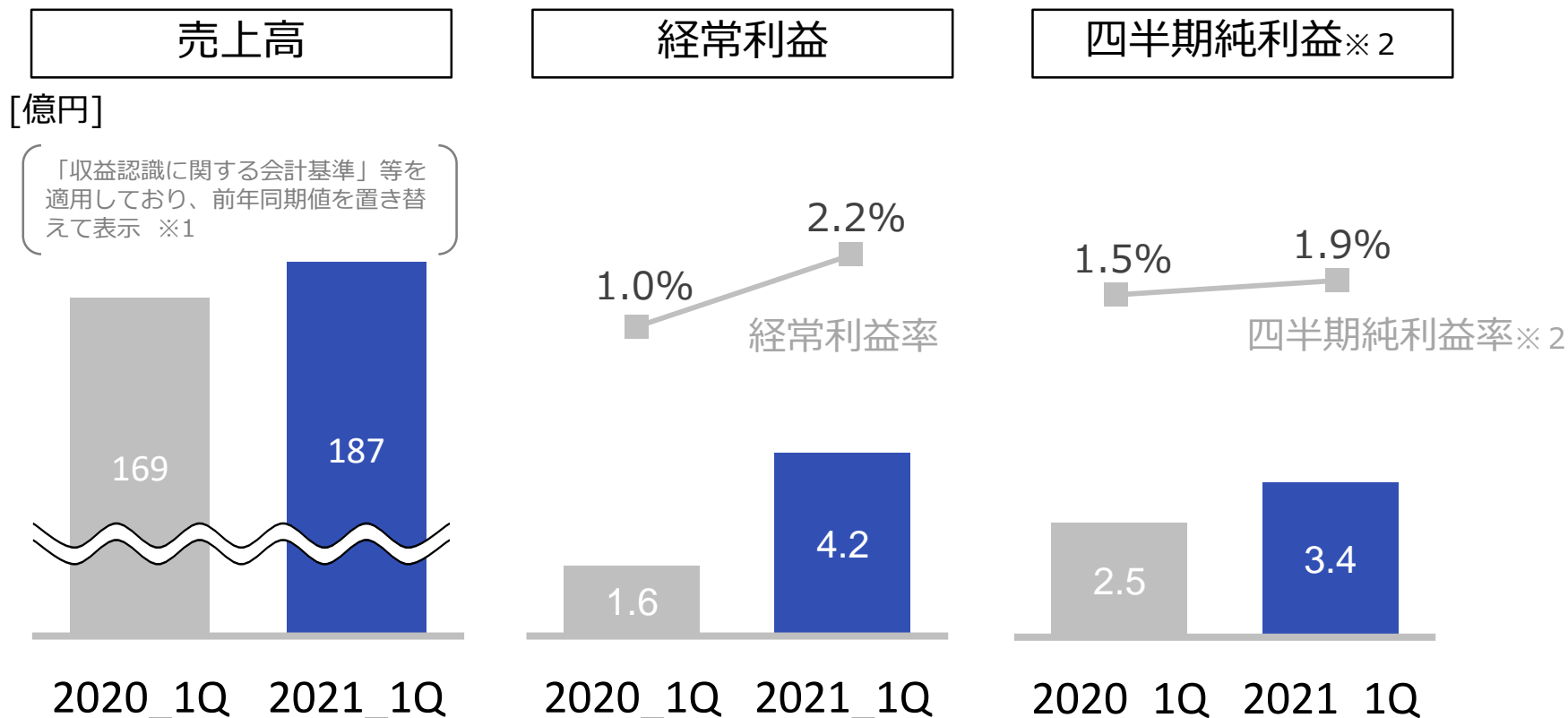
株式会社 ヤギ
(証券コード 7460)

2021年8月6日

将来見通しに関する注意事項：本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2022年3月期 第1四半期連結決算の概要

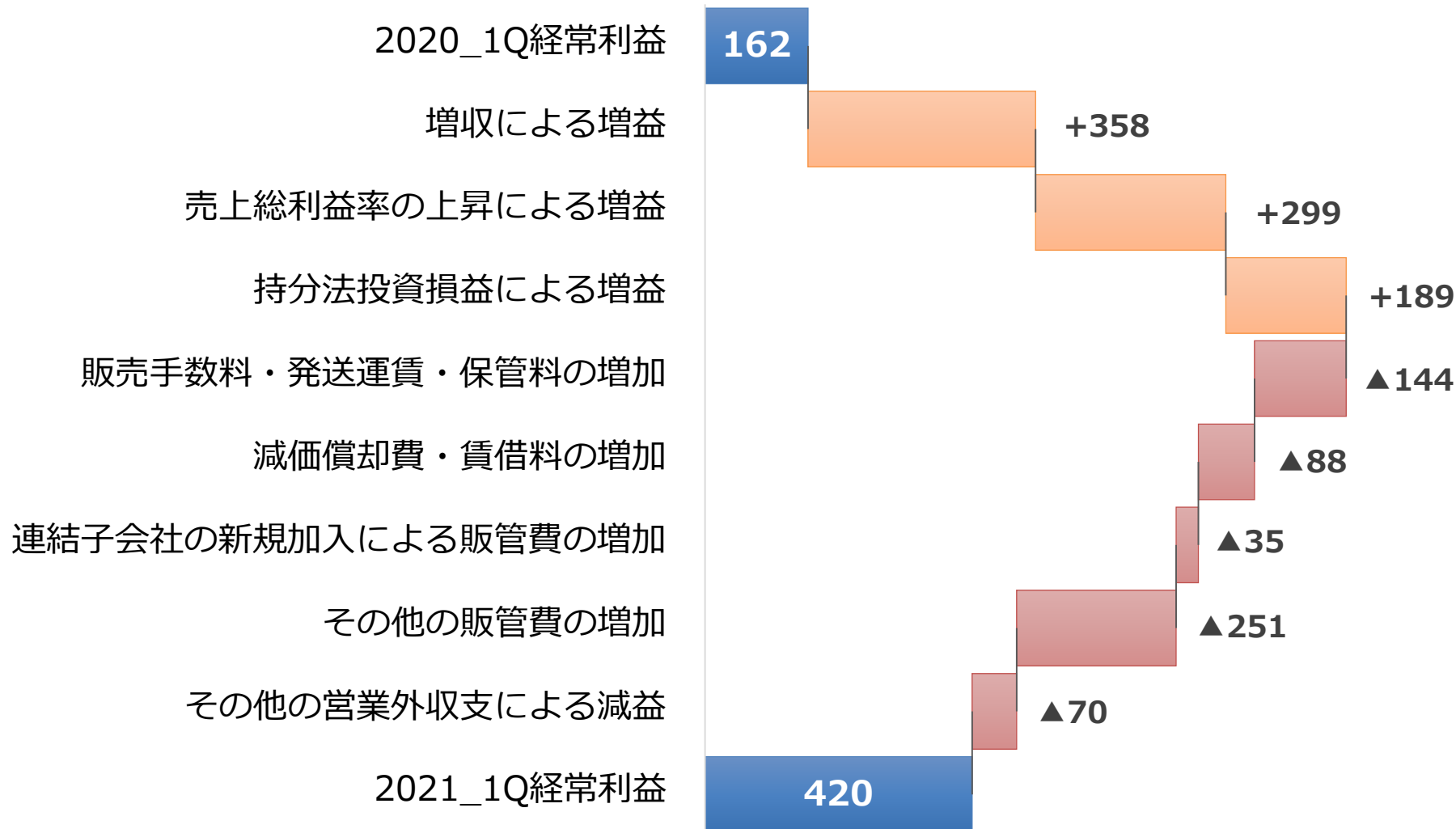
- ▶ 売上高187億円(前年同期比増減+10.3%)、経常利益4.2億(+159.1%)、親会社株主に帰属する四半期純利益3.4億円(+36.2%)
- ▶ 依然として新型コロナウイルス感染症による影響が続き、先行き不透明な状況にありますが、外的要因に対してEC・通販事業等の販売を強化したことにより堅調に推移し増収増益



※1.「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、決算短信では対前年同期増減率は記載しておりませんが、当資料では比較可能なように、前年同期の数値を同様の基準に置き換えております。 ※2.親会社株主に帰属する四半期純利益

経常利益 増減要因

[百万円]



※前年同期の数値を「収益認識に関する会計基準」等の基準に置き換えて増減値を算出しております。

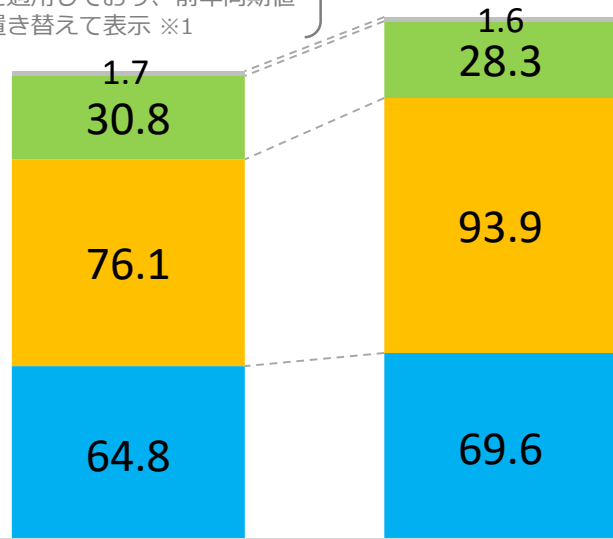
セグメント別 売上高

- 売上高 187億円、前年同期比増減+17億円 (+10.3%)
- 特に実店舗での販売低迷等の影響を受けブランド・ライスタイル事業は減収、一方で巣ごもり需要への対応やEC分野等に注力したことによりアパレル事業は大幅増収
- マテリアル事業は、車両内装材・インテリア向け原料販売や、高付加価値原料が堅調に推移し増収

169億円

187億円

「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、前年同期値を置き替えて表示 ※1



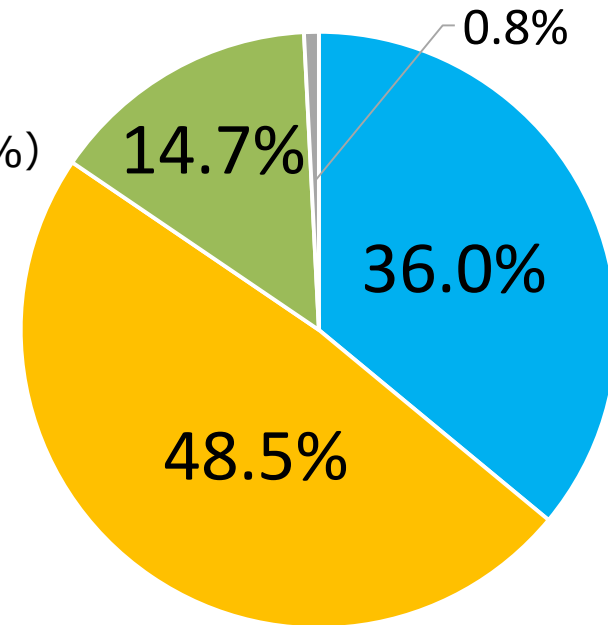
不動産事業

ブランド・ライスタイル事業 (▲8.0%)

アパレル事業 (+23.3%)

マテリアル事業 (+7.4%)

構成比 ※3



調整額※2 ▲ 4.0

調整額※2 ▲ 6.5

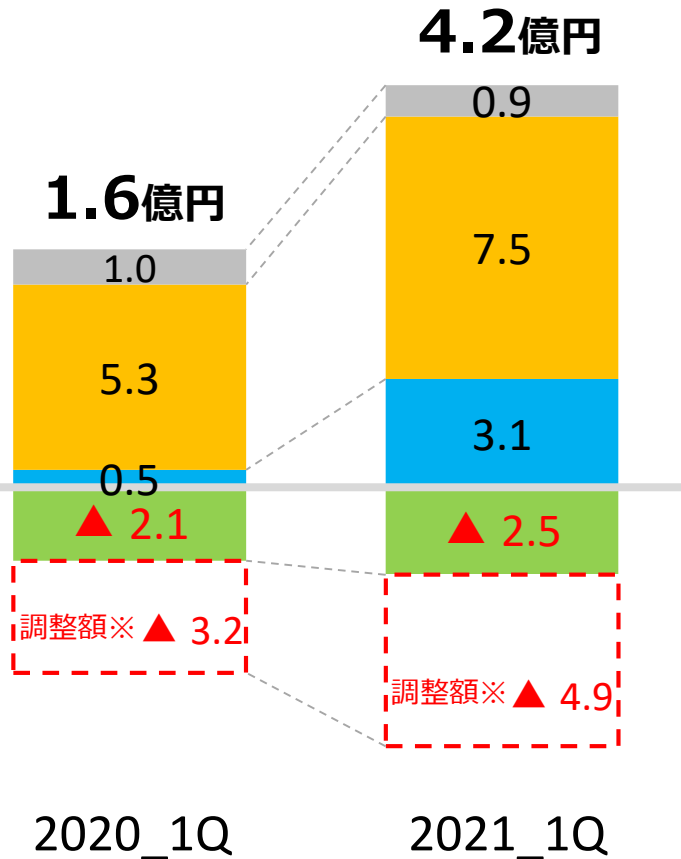
※1.前年同期の数値を「収益認識に関する会計基準」等の基準に置き換えております。
 ※2.売上高の調整額は、セグメント間取引消去等であります。
 ※3.構成比は調整額を除く売上高で算出しております。

2020_1Q

2021_1Q

セグメント別 経常利益

➤ 経常利益 4.2億円、前年同期比増減 + 2.5億円 (+ 159.1%)



主な増減要因

- **マテリアル事業** 3.1億円 (前年同期比増減: +2.6億円)
 - ・車両内装材・インテリア向け原料販売や高付加価値原料については堅調に推移。一般衣料向けの原料受注は緩やかな改善傾向にあるものの、期待するほどの回復には至らなかったが、テキスタイル販売は繁忙期となり、巣ごもり需要に呼応した着心地重視のカットソー等が復調傾向に推移したことにより増益
- **アパレル事業** 7.5億円 (+2.2億円)
 - ・都心部に実店舗を展開する駅ビル・百貨店・ショッピングセンターなどは、3度目の緊急事態宣言による外出自粛で連休中の商況は低調に推移。また、原料の高騰や為替の影響で仕入コストが上昇し収益の確保に苦慮。一方で、TV・カタログ媒体の通販向け商材、低価格ゾーンの量販店向け商材は、引き続き堅調な動きを維持し増益
- **ブランド・ライフスタイル事業** ▲2.5億円 (▲0.4億円)
 - ・生活資材や家庭用抗菌抗ウイルス商材を扱うライフスタイル分野は比較的安定していたものの、昨年度コロナ禍で活発な動きを見せたマスク商材は市場で供給過多となり低調に推移。また、ブランド品を扱う分野においては、緊急事態宣言下で休業する店舗もあり総じて苦戦し減益。
- **不動産事業** 0.9億円 (▲0.1億円)

※セグメント利益または損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

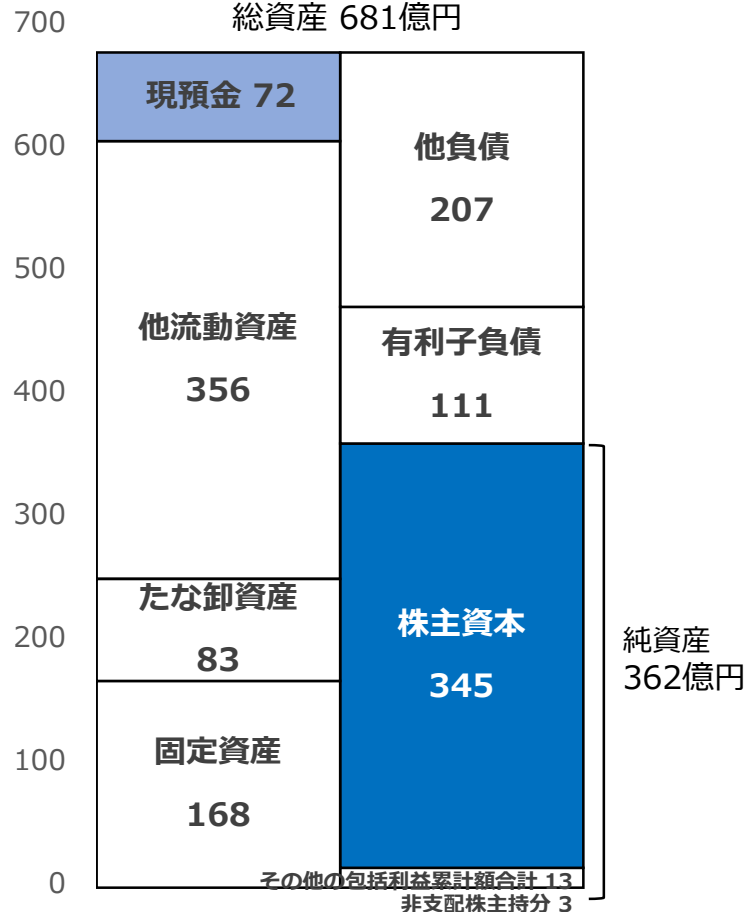
バランスシートの状況

- 現金及び預金は前期末比増減 + 13億円（事業環境に対応し手元流動性を向上）
- 自己資本は▲1億円（株主資本は▲1億円）
- 自己資本比率は52.5%（前期末比▲0.1pt）

[億円]

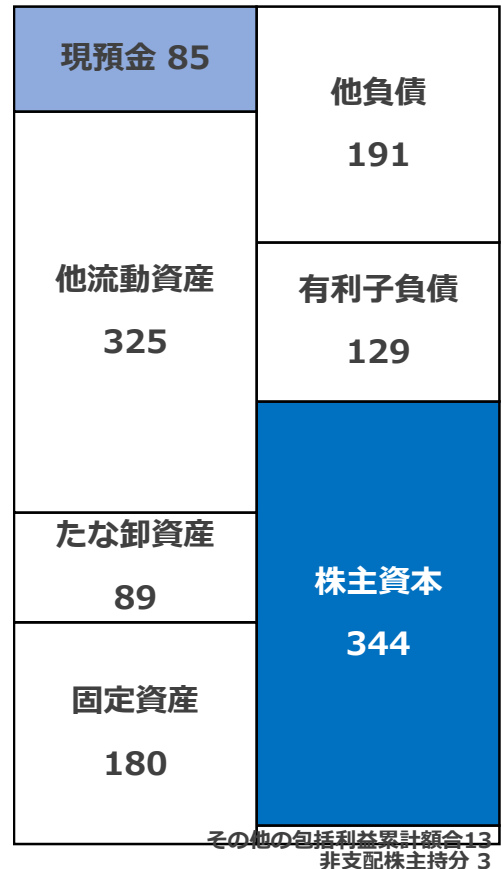
2021年3月期末

総資産 681億円

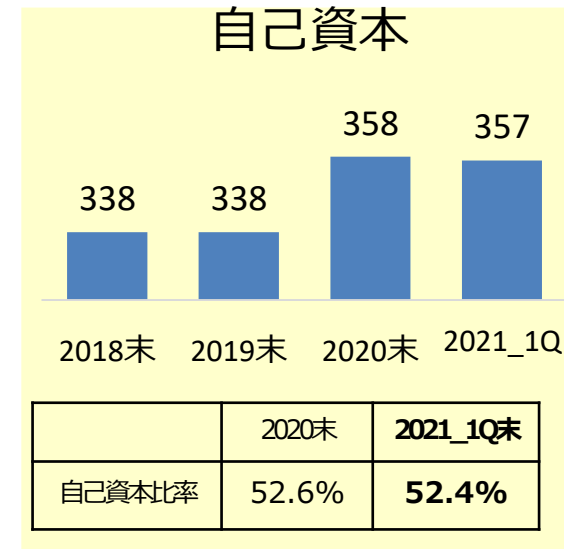


2022年3月期第1Q末

総資産 681億円



自己資本



純資産
360億円

2022年3月期の見通し

■ 2022年3月期通期業績予想及び配当予想

➤ 業績予想

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益※	1株当たり当期純利益
700億円	22億円	24億円	15.6億円	187円91銭

※親会社株主に帰属する当期純利益

➤ 配当予想

第2四半期末	期末	合計	配当性向
	48円00銭	48円00銭	25.5%

※上記の業績予想及び配当予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 方針

中期経営企画「MAKE A DREAM,1+∞」の2年目は、コロナ禍の現在そしてアフターコロナを見据えて急速な社会、環境変化に対応すべく、成長分野への経営資源投入、新領域への挑戦を行い、更なる経営体制の高度化を図ってまいります。

- **マテリアル事業**：オーガニックコットンをはじめ、環境配慮型商材の展開を更に強化します。また、当社テキスタイルECサイト「Fably」をリニューアルし、全国各地のサプライヤーが参加できるオープンプラットフォームとして進化しています。Youtubeでの配信も開始予定で、テキスタイルECとして更なるサービスの拡充を行います。
- **アパレル事業**：今後も厳しい事業環境が予想されますが、QR対応とコスト削減を強化しつつ、好調な事業への経営資源の集中により利益の増大を図ります。また、Virtual YAGI（バーチャルプラットフォーム）の開発着手により、業界内外に向けての新たな価値を提供するデジタルプラットフォームの推進や、サステナビリティを通じたSDGsへの取り組みによる事業展開を強化します。
- **ブランド・ライフスタイル事業**：ブランド小売事業におけるEC販売の強化とブランディングに拘り、既存顧客へのサービス向上とコンテンツ提供を行うことで、ロイヤルカスタマーを増やしつつ、新規顧客獲得のためにきめ細やかな接客を強化します。また、新たな生活様式や環境に配慮したライフスタイル商品の開発を進めることで、顕在ニーズに対応し、潜在ニーズを掘り起こすことで販売拡大を目指します。